

リニア時代に向けた新施設の整備に関する検討の「基本的考え方」(素案)に対する市町村からの意見の整理

	ア. 考える視点、コンセプトの方向性	イ. ビジョンの具体化、発想例	ウ. 他地域機関との連携棲み分け	エ. その他
飯田市	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア沿線都市の施設整備・運営状況を確認し議論すること ・将来の維持管理費が心配、民間資本の活用が必要 ・大きな会議を継続的に開催していくことは現実的に難しく、大規模施設の必要性に疑問あり、新たに造るものは必要最小限にして、既存施設をつなぎ活用することも必要 ・文化会館や公民館的な利用とコンベンションやアリーナとの棲み分けが必要 ・中途半端なコンベンションは不要、市民の文化・芸能に光を当て、豊かな生活に結びつく小規模でハイクオリティな施設とし、地域の経済効果を高めるものを望む 	<ul style="list-style-type: none"> ・「当地域の暮らしの質の向上」に資するため、子どもから高齢者までが常時集えて交流できる空間づくりが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルプスなど当地域の眺望を活かして他地域との差別化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の検討にあたっては、継続的な大規模会議誘致の困難性、産業振興と人材育成の拠点の活用、まちなかMICEとの連携といった視点、当地域における屋内体育施設設置への期待や他のリニア沿線都市の動向も踏まえ、「スポーツやイベントができるアリーナ機能をメインとした複合施設」を研究する必要があるのではないかと。
松川町	<ul style="list-style-type: none"> ・飯伊地区の住民が一つの圏域として結束が重要であり、施設が地域内の交流活動の場となることが重要 ・「甲府・中津川と競合しない、差別化・棲み分けをしっかりとる」に同意 ・若者が都市に向かうのは、その街、人々のエネルギーに引き寄せられるからである。よって、閑静さと落ち着きなど当地域の風土を支持する者が必要とする施設が望ましい 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まずはどんなことがしたいかを考える」ことに同意 ・伝統・民俗芸能の発信が、各地で課題となっている担い手確保に結びつくことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の丈に合った計画と投資を第一に考えることは重要 	
高森町	<ul style="list-style-type: none"> ・誰にどんな利用をしてもらうのか整理し、中途半端な建物ではなく、人で賑わう施設になることを考え方の中心に ・単純に「芸術、文化、スポーツ、産業。本物に触れることができる施設」でいいのでは。体育館や文化会館の延長線ならば、作る意味がない。 ・考える視点として、施設の設置場所なども視点を落とすべき。リニア駅隣接や接続のコンベンションホールとなれば、他地域のイベントの誘致が可能で勝機はあると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツ関係や文化関係などは、施設があれば誘致はいくらでもできる時代だと思う。 ・本物のスポーツ、芸術、文化、産業に触れる機会の提供と関係人口の増加をビジョンに捉えていけば、その後の地域での利用価値はその都度ついてくる。 ・コンベンション施設は超未来型施設として、例えば受付やレストラン・ホテルなどの注文、配膳などすべてを見ても楽しめる機械化(システム)を徹底的にする。 ・地域の伝統芸能や最先端の技術に触れられる体験ブースを充実させ、今までにない地元の子供たちの遊びの場・学びの場を創設することで、教育のスキルを上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設で賄える施設機能、同様の施設はいらない ・同時にできる、他のリニア駅周辺地域との差別化は重要、それ以上の施設を 	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア中央新幹線によりどのような波及効果があるか、地域の大多数が共感できる将来の方向性・ベクトルが共有できていないことが一番の課題 ・リニア中央新幹線長野県駅との関係性を明確にすべき、駅や駅周辺の開発、今後の土地利用などから、当該施設がどのような拠点として活用され、地域全体がどのような波及効果を求めるのかを明確にすることが必要
阿南町	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅の設置により、大都市との移動時間は大幅に短縮するものの、日本の大都市一極集中の構造は当面変わらない。交通の便が良くなるので、地域の担い手が流出してしまうことも懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・V1リーグで使用できる体育館にして、VC長野トライデンツの本拠地にしてほしい 		<ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅開通までに施設を整備する必要も理解できないわけではないが、開通後の人の流れを見ていく中で、真に必要な施設のコンセプトや規模を考えた遅くはない。 ・建設目的が14市町村全てにメリットがある施設であるべきと考えるが、ランニングコストも十分検討していく必要がある。
阿智村	<ul style="list-style-type: none"> ・コンベンションホールとアリーナは用途や地域バランスを考え、別のものにした方がよい。 ・ホールは、飯田文化会館の建て替えもあり、中心市街地の機能を考えながら、飯田市中心の方向性で検討すべきと考える。 ・アリーナについては、ホールと離れた駐車場の確保できる総合的なスポーツを考えた場所で検討し、長野県、民間の協力を得ながら広域が主体となるべき 			<ul style="list-style-type: none"> ・伊那谷の売りは伝統芸能であり、リニア駅に獅子舞が一堂に展示してあるブースが欲しい(参考：唐津市の屋台展示)
平谷村	<ul style="list-style-type: none"> ・リニアを活かして、東京ー長野ー名古屋ー大阪と繋がるような体育施設でワールドカップなど世界大会等にも利用されるような施設にしてほしい(文化、芸術等の活用も併せて) ・外から(海外からも)人を呼び込むことができる施設で、地域(長野県)のPRができる施設が必要 ・長野県または南信として特徴ある外観や内容で、他にありような施設にしない ・運営コストがどのくらいかかるか、経営の見通しについてしっかり検討する必要がある ・I、Uターナーが増えるような、若者に魅力のある施設にしてほしい 			
根羽村	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を的確に捉えていると考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度使い方を絞り込まないと、中途半端な使いにくい施設となる可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化ホールについては、飯田文化会館にその機能を集中すべきと考える。新たな文化会館の候補地は、やはり丘の上が魅力的ではないか。 	
下條村	<ul style="list-style-type: none"> ・コンベンション、屋内体育施設の設置は、将来、若者が希望を持てる地域にするために、どちらも必要な施設と考える ・基本構想では、この地域のめざす将来像の一つに「小さな世界都市」がある。この地域が生きていく上で必要な概念と考えており、そのために、コンベンション、屋内体育施設は欠かせない施設である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・コンベンションは、既存の施設を有機的に結び付けることにより大きなイベントなどに対応できる交通体系を確立する。そのメイン会場として2~3千人規模の施設が必要であり、この施設は飯田市中心で計画、実施がベターだと考える(既存施設の建替え計画に併せて) ・屋内体育施設は、身近でトップクラスのアスリートを見る文化の醸成が必要であり、地域で使う、観る、その延長線上に支えるファンによる地域づくりのために必要な施設である 	
売木村		<ul style="list-style-type: none"> ・「基本的考え方」はどれをとってもその通りであり、この素案を踏まえて、コンベンション施設については一歩踏み出すためにも、飯田市の文化会館等の建替えの時期でもあり、まずは飯田市で方向を示してそこに広域連合が協力していく ・スポーツアリーナについては、南箕輪村がバレーボールチームを育成して一部リーグ昇格というバレーボールをコンセプトにしており、当地域ではどの競技を推進してどのように応援していくのかという方向を示して育成していくことにより、こんなアリーナがあればという事になると思う。必要に応じて建設していくことが良いと思う。 		

	ア. 考える視点、コンセプトの方向性	イ. ビジョンの具体化、発想例	ウ. 他地域機関との連携棲み分け	エ. その他
天龍村	特になし	特になし	特になし	<ul style="list-style-type: none"> 施設整備に対する慎重論は、小規模町村にとっては根強くあるため、忘れないように意識してほしい 施設の設置場所については、慎重に検討してもらいたい
泰阜村	<ul style="list-style-type: none"> 地元住民が利用できることは重要、また、都市に行かなくても国際的な体験ができることは、子どもたちの刺激にもなる 大きな会議や催しができることは、都市との交流や移住につながると思う 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の文化芸術はその地に行かないと分からないことも多くあり、興味を持てる導入部分であってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 施設集中型が良いのでは 	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊施設は地域の業者の出資による委託はできないか。 コンベンションや学会等会議の施設と想定した場合は宿泊施設と一体化が好ましい。大手ホテル会社を誘致し、広域連合としては建設補助等により支援 競技、コンサート用の大ホール屋内施設（多目的ホール）は広域連合主体で上記ホテルに隣接して建設、ただし、管理運営はホテルに指定管理委託
喬木村	<ul style="list-style-type: none"> 素案のとおりでよい 	<ul style="list-style-type: none"> 中京圏、関東圏の中間に位置する立地を生かして、全国に支社のある企業の従業員研修施設機能 教育、人形劇等文化活動も含めた子育て支援の拠点とし、子育てしやすい環境を外部にアピールすることにより移住定住に繋げる 	<ul style="list-style-type: none"> 素案のとおりでよい 	<ul style="list-style-type: none"> 外の人に対して、施設利用（モノ）のみではなく、足を延ばしてこの地域の魅力を実感できるような体験型のコンテンツ（コト）が必要
豊丘村	<ul style="list-style-type: none"> 地域の「暮らしの質」の向上に資する、見たことのない（県内唯一の）施設という視点、「誇りや自信を創造する」施設・「価値を発信・創造する」というビジョンは、壮大すぎる感がある。 この地域と長野県が具体的に何を必要とし、必要とされるコンベンション等の整備により、地域課題がどのように解消されるか整理すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> 民間のノウハウはおおいに活用すべきであり、民間事業者（施設の運営を担う事業者等も含む）の意向も尊重して、地域に求められる機能や規模、また使い方を絞り込むべき 民設民営も視野に大型複合アリーナを検討するという、本構想スタート時点のことを考慮すると、発想例①をベースに調整したい 	<ul style="list-style-type: none"> コンベンションを強く意識したりニア沿線の地方都市（甲府市・中津川市）と重複する施設は避けたい。また、エス・バードとリニア駅周辺整備に伴う機能の重複も避けて整理すべきである 	<ul style="list-style-type: none"> 飯田文化会館の改築と、新たな施設の連携・一体的な整備は、一考の余地があると思われる。
大鹿村		<ul style="list-style-type: none"> 「プロスポーツに触れ、本格的にスポーツを学ぶ」と「本物の文化芸術に接する機会を創る」について 二つの本物を一つの建物で賄うことは、広さとか音響効果など、難しい点が多いのではないかと？ 無理をすると、よく言われる「中途半端で使いにくい」になる可能性が高いと思う。 飯田文化会館の改築計画があるようなので、文化関係の施設はそちらにと、持ち分を分ける方法があると思う。 		

◎いただいた意見の整理（事務局）

ア. 考える視点、コンセプトの方向性に関する意見

- 飯田文化会館の改築を含む文化ホールと複合アリーナは別に検討した方がよい。（文化ホールは飯田市で、複合アリーナは広域連合で）
- ※機能をどう分けるか（劇場型文化ホール、複合アリーナ、コンベンションホール等）
- 将来の運営コスト、経営の見通しをよく検討すること、民間資本の活用が必要である。
- 地域の「暮らしの質」の向上に資する、見たことのない（県内唯一の）施設という視点、「誇りや自信を創造する」施設・「価値を発信・創造する」というビジョンは、壮大すぎる感がある。

イ. ビジョンの具体化、発想例

- 本物に触れる機会の提供、伊那谷の民俗芸能の発信により担い手確保に結びつけることが必要
- ある程度使い方を絞り込まないと中途半端な使いにくい施設となる可能性がある。
- 地域の伝統芸能や最先端の技術に触れられる体験ブースを充実させ、今までにない地元の子供たちの遊びの場・学びの場を創設することで、教育のスキルを上げる。
- 外の人に対して、施設利用（モノ）のみではなく、足を延ばしてこの地域の魅力を実感できるような体験型のコンテンツ（コト）が必要
- 「プロスポーツに触れ、本格的にスポーツを学ぶ」と「本物の文化芸術に接する機会を創る」について、二つの本物を一つの建物で賄うことは、広さとか音響効果など、難しい点が多いのではないかと？ 無理をすると、よく言われる「中途半端で使いにくい」になる可能性が高いと思う。

ウ. 他地域・機関との連携・棲み分け

- リニア沿線都市との差別化は重要
- 地域内の既存施設で賄える機能は不要（エス・バード、リニア駅周辺整備との機能の棲み分け）

エ. その他

- 開通後の人の流れを見ていく中で、真に必要な施設のコンセプトや規模を考えても遅くはない。
- 施設整備に対する慎重論は、小規模町村にとっては根強くあるため、忘れないように意識してほしい
- リニア中央新幹線長野県駅との関係性を明確にすべき、駅や駅周辺の開発、今後の土地利用などから、当該施設がどのような拠点として活用され、地域全体がどのような波及効果を求めるのかを明確にすることが必要